

研修で  
学校が  
変わる

# 副校長・教頭研修② まとめ

令和3年8月31日(火)  
Web会議による遠隔研修(各校)



## 「地域とともにある学校づくりにおける 副校長・教頭の役割」

**コミュニティリーダー**としてのリーダーシップ実践

講師 露口 健司 氏(愛媛大学 教授)

### 【研修のねらい】

■ 地域とともにある学校づくりについて理解を深め、副校長・教頭としての学校運営能力の向上を図る。

### これからの学校と地域の連携・協働

- ◆ 地域とともにある学校
- ◆ 子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制
- ◆ 学校を核とした地域づくり つながりの醸成

### つながりの構成要素

- 1 所属・対話交流(ネットワーク)  
→ 集団への所属、他者との対話交流活動
  - 2 お互い様の規範(互酬性規範)  
→ 相互支援、恩義の貸し借り
  - 3 信頼関係  
→ 他者からの支援期待
- 「深まり」「広がり」 → 「絆」への近接

## 幸福は人々に伝播する

校区における  
人々のつながり

子どもの資質・能力を高める

### 子どもを取り巻くSC

家庭SC 子ども間SC 学級SC 子ども-地域SC

### 教師を取り巻くSC

学校組織SC 学校-地域SC

### 保護者を取り巻くSC

保護者-学校SC 保護者間SC 保護者-地域SC

SC : Social Capital  
社会関係資本=つながり

### 学校管理職

校区につなかりを醸成するリーダー

### 受講者の明日への想い

地域・保護者とのつながりを高めるために、来校してもらう機会を設定したい。また、保護者相互のつながりや関わり合いをつくるための仕掛けを校区で考えたい。

保護者同士、教員と保護者、教員と地域などいろいろなつながりを作っていくために、今ある教育活動や行事を活用して場を設けていくことが必要だと感じた。またウェルビーイング・リーダーシップの考え方を生かして、自分を含めた周りの人々みんなが幸せになる事を考えて、日々過ごしたいと思う。

人と人とのつながりが子どもを育てるということが、様々な相関関係図などから明らかになっていた。このコロナ禍で保護者や地域とのつながりを持つ機会が少なくなっているが、途絶えることなく、できることを粛々と積み重ねていくことが、これからもふるさとで生きていく子ども達を育てていくことにつながると思う。

さまざまなデータから地域や保護者、職員がつながることで、学力向上につながる結果を示していただき、とても参考になった。本校を取り巻く環境を整理し、地域の人的・物的な支援を整理し、財産として本校の運営に生かしていきたいと思う。

「つながり」をキーワードとして、地域との対話、保護者との対話、子どもとの対話の大切さを改めて職員にも発信していきたい。信頼される学校となるように、保護者・地域に、学校が目指すものや児童の姿を発信していく仕組みをつくりたい。自分が幸せになってほしいと思っている人が幸せになるのが幸せと感じる生き方という言葉が心に残った。

人々の幸せを高めるウェルビーイング・リーダーシップについて、12の観点を自分と照らし合わせて点検していきたい。サーバントリーダーとして何が出来るのか常に考えて行動していきたい。